

刊夕 日三月十

常磐毎日新聞

定価 一部五銭 一月五拾五銭 郵税五銭
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

厭離穢土

真繼 雲山

精進と雑行との差はありしにせよ廿年來私は道を求めて歩いて来た。そのあいだ何度も一瞥然大悟したやうな氣もしたが、どれもこれも本物ではなかつた。今も悟つてはゐないけれど何ほどか不生不死の意味が分つて来た、心の結着も得られたやうな氣がする。

過去廿年間の求道生活の賜ものとしては金はなし、名譽はなし、近頃流行の勳爵はなし、徳もそなはらず小慈悲も起らず、謂はゆる不可得といふの外なく、たつた一つの收穫らしいものとしては生死出離の心もただけである。

その生死の出離とは、生死のまことのすがたを見きわめ、現在の己れの心もちとして、生死に屈托の無くなつたことをいふであらう己れの行く手の苦惱を想像して、その時の苦惱は兎もあれ角もあれ、現在において生死にこだわりのない心もちに住し得るなら、それは出離生死といふて不可なりと思ふ。

他家へ嫁した以上には、足蹴にされても虐待されても辛抱せねばならぬといふ考へ方もあるが亭主が大切

にしてきてこそ花嫁生活に價値があるので虐待されて無意味に苦しむほどなら寧ろ歸るに如かぬ。生きてゐる價値が五錢で、苦しむ損失が七錢、差引き二錢の赤字生活が營々と苦しむ姿が三界の火宅である。

或る老人の言ひけるは『大根でも煮れば直ぐ腐る

ノート

時沸し器に卵の殻半分を加へると灰を去る鹽一つまみ入ると粉が浮かない二度沸しては風味が無くなる

長生きしたけりや入浴するな、十日に一度水風呂に入れししたら煮られぬ大根のやうに長持する』と教へてくれたが、虚假不實、狐と狸と狼の合宿所のやうな淺ましい世の中に水風呂にまて入つて長生きしやうとは私は思はない。

二明日の献立二
 (朝)小松菜おひたし、か
 くしからし
 (晝)鹽焼き肴
 (晚)里芋、初茸、小口人
 じん、へぎゆずのす
 まし仕立

迷妄の凡夫は、如何に厭離穢土を教へても、この娑

笑話

▼見えぬぞ
 初めて放送する
 某博士、とにかく講義をすまして、額の汗を拭き乍ら言つた。
 『御質問がありましたら遠慮なく手を舉げて下さい』

ある。その厭離穢土、欣求淨土の心もちが自然に沸き生れて来たのが生死の出離であり解脱である。〔完〕



燈下雜筆 (一)

□ 芭蕉の足跡
 世に芭蕉の句碑たつもの極めて多く、中には古きこと二百年を越ゆるものあり、往々にしてみな芭蕉行脚の跡の如く云ふものがある平瀨八幡社境内にもこのあたり目に見ゆるものみな涼し
 の句碑あつて、芭蕉この平瀨にて作るが如く云ふ。しかるにこの句、文獻に見るに平瀨の辭なく、もちろん芭蕉が濱街道を通つた記録はない。また「このあたり」の句は海邊にて作るものに

あらずして、河邊にて作る句なるに於てはいよゝおもしろい。
 みちのくの尼子の横や
 稻の上
 また芭蕉作ること定かでない。世に講談師風なる宗匠あつて、芭蕉松島に遊び風光あまりに秀で、詩藻に絶す乃ち感嘆久しうし
 松島やあゝ松島や松島
 と作つたと云ふに至つては出たらぬも甚しきものである。



常磐歌壇

◇ 上野孤舟
 弓月や遙か彼方の山の端に
 秋の夜ふけにびとり山路を
 戀人へ淡き灯に便り書く秋の夜更いけにこそろきさびし

御料 鹽 豚
 町田 三三三 屋
 電話三三三番

● は切貨 ●
 の番三四三話電
 ミシサ
 !!!へーシクタ和昭

物質 一般 各種債券
 店質井三
 平町四丁目六番 電話六〇六番

看護婦急派
 の求めに應
 じます
 平町南町
 平看護婦會
 電話三〇七番

學生服賣出
 温かい丈夫な黒小倉
 通學服を豊富に取扱
 特價にて提供
 小學用(長ズボン付) ¥0.80
 全……特製品 ¥2.00
 中學用特製品 ¥2.90
 ぶかや洋服店 平二 電208

産名城磐
 出賣節鯉
 魚問屋
 店理代平命生本日大最優最
 榮盛賀志
 番三一電 目丁四平

イヤ! 君!
 いゝ冬服を求めたね
 断然三二年型だよ
 いやコレカネ!
 例の……「リレ」
 正札堂
 六三四電通場車停目丁四町平

高久病院
 院長 醫學士 高久忠
 副院長 新潟醫學士 赤羽清
 藥局長 藥劑師 佐竹菊雄
 内科小兒科 外科花柳病科
 耳鼻咽喉科 レントゲン科
 平町田町 電話五二三番

月曜言論

わが選手勝つ

昨日の本縣聯合青年團第九回體育大會に於て石城郡代表選手は正々堂々と大勝を博し、白熱的の感激と昂奮の渦の中に、榮譽ある優勝児を授與された、吾人は此の吉報を手にして、眞に血沸き肉躍るを覺えずに居られない、

スポーツ精神の發揮より云ひば勝敗は眼中に置くべきでなく、飽迄もスポーツ精神の發露に基いて正々堂々と闘ふべきである、然れ共闘ひは必ず勝つとの覺悟なくんば、恰も當てなき旅を漂泊ふが如く、精進の目標に張り合と意氣込を感ずる事が出来ない、わが石城選手が必勝を期して場に臨み然も正々堂々として恥ぢざるスポーツ精神を發揮して遂に大優勝の榮譽を擔つて凱歌を奏し得たるは、實に最上の愉快とし肩身の廣さを感じて止まざる處である而して本郡の體育が此の誇るに足る、段階に迄も躍進到達したるを喜ぶものである、

正に選手各位の御苦勞に對し滿腔の熱意を以つて其の勞を謝すると共に、指導者各位の絶えざる努力が此の結晶を生むに至つた有難さを痛感する、而れ共、體育は一部の選手に委せて平然たり得べきものでない、今回の優秀なる選手を示した基準と

して、郡内青年の間に一層體育熱が旺盛となり、來年再び來るべき此の日に、優勝児を逸し去るなきを期し

榮譽を擔つた

代表選手歸る

驛前の大歓迎

直ちに祝勝會

昨日の縣聯合青年團第九回體育大會に出場した石城郡代表選手一行十九名及び附添の諸員は陸上競技を始めとし剣道柔道相撲の武道に全勝ある優勝児を獲得し本日午後三時五十八分平驛着列車にて歸郡したので青年團其他有志が驛頭に熱狂的歓迎をなし直ちにマルトモホールに於いて祝勝會を行つた

青年の指導に 磐中校長出張 磐城中學校校長橋本文壽氏は來る十五日より五日間本縣主催の下に開かれる青年講座の指導員として左の如く出張すると

磐陽野球の

リーグ戦決定

來る廿三日から

磐陽野球聯盟協會主催の磐陽野球リーグ戦は左の日程に依り磐中グラウンドに於て開催する事に決定したが若し同グラウンド差支へを生じた場合は高坂、入山兩グラウンドを使用すると

十月廿三日 三十日 十一月六日 十三日 廿日

沖原教諭出張 磐城中學校教諭沖原信雄氏は來る

被保險者陸上競技大會の役員は磐中各教諭を主として本日左の如く決定された

赤井村長 辭表提出

早くも後任運動 また紛糾か

石城郡赤井村長菊地徳太郎氏は今回同氏經營の福島炭礦業務多忙の爲め辭表を提出したので田久彌七郎若松美三、草野三郎等の諸氏は内々後任村長たらんと運動を起しつゝある由

新記録續出!

昨日の學童競技

秋晴れの磐中校庭に

既報石城第三區各小學校對抗陸上競技大會は昨日午前八時半より秋晴れの磐中グラウンドに於て會長會我直治氏の開會の辭に始り審判長小野寛美氏の競技上の注意あつて五十米をトップに開始されたが出場選手は千餘名新記録續出し競技三十種目中前年度の記録を破りたるもの二十一に達し午後四時半盛況裡に閉會したが戦績は左の如く受賞者は三百

二十四名であつた因に新記録左記の通り (百米) 十四秒五 尋五男 (内郷鈴木國雄) (四百リ) 一分一秒六 高二女 平二高橋 島津賀 飯島 國井(走巾) 四米三九 尋六女 平三高野弘子(走高) 一米四〇 高二男好 間本間政雄 武石利雄 (ボールスロー) 二十四米 六七 尋五男 平一田中忠太郎

庭球界の登龍門

關東北庭球大會

來る廿三日磐中校庭に

強豪チーム參集

東北庭球界の登龍門と目される、平町磐城軟球協會の第五回關東北庭球大會は來る廿三日午前八時より磐城中學校A、B兩コート

にて催される事になつたが地方球界の雄仙臺鐵道局及び日立チーム並に前年の優勝チームたる古河炭礦チーム等の臨に

處する平俱樂部の猛烈な競争は各方面より期待されて居るが申込は十八日迄に田町の同協會宛に寄せられ度いと

磐中大勝

入山對野球戦

既報磐城中學校對入山の野球戦は去る一日午後一時より磐中グラウンドに於て行はれ十二對三のスコアにて磐中大勝したがメンバーは左の如くである

入山 坂浦中野成戸澤良野 磐中 石杉田(金) 桃由小 (投捕) 一二三遊右中左 妻益實久 平平木谷 朝鯨鯨鯨 大大鈴布

藤原判事赴任

後任は荒井氏

既報白河監督判事に榮轉された元平支部豫審判事藤原氏は來る七日平發午前八時五十分赴任するが後任は盛岡地方裁判所判事荒井虎雄氏であると

飯野村運動會

石城郡飯野村男女青年團、消防組、青年訓練所生等の聯合陸上運動會は來る七日午前八時より同村小學校に催される

對抗陸上競技

石城郡第四區小學校對抗陸上競技會は來る二十五日草野小學校グラウンドに於て開催されるが出場校は草野、神谷四倉、大野、第一、第二、夏井、豊間、高久、平浦の九校であると

平町人事

回求人の部

△ミシシ見習 十七才 尋卒 任着小遺(東京市某)

回求職の部

△土工夫 四十四才 尋卒 給料面談(兵庫縣某)

回出生

△紺屋町四九 當時宮城縣 壯廉郡渡波町字下伊勢谷 地五六守谷千代松氏二女 明子

回結婚

△鍛冶町九 當時茨城縣日 立町三四五三小林儀平氏六 男茂

回死亡

△八幡小路二二 藤田祐信 (五二)

回死

△紺屋町一 橋本榮七氏實 父鶴太(九〇)

自力奮起の少年が 途中で兄にはぐれ

諸方を流浪し轉々と歩く

平署が母親探査

平署では去る一日本縣郡倉署で平町字不詳高萩清(二)と云ふ少年ルンペンを救済して居るとの通知に接し目下清少年の親を捜査中であるがこの少年は菓子行商をする母親キヨ(四)の手一ツで兄光雄及弟の汎(八)の兄弟と共に暮して居たが不況のため清少年は八月中旬

女浦島

兩親に巡り逢ふ

平署へ感謝状

今様浦島として既報した去月廿七平署人事相談所に名さへ知らぬ兩親の捜査方を願出た東京市龜戸町四ノ七二齒科技工武田省吾内縁の妻市毛ミヨ(三)の兩親の身元に就いては心當りの者が親切にもミヨの實父宛に新聞を送つてやつた事から永年尋ねあぐんだ實父吉三郎はミヨが誘拐された後尾尾銅山に移り住み坑夫をして居た事が判明し久し振りで親娘對面したとの事に女浦島のミヨから平署へ左記の如き禮状を寄せた

市毛ミヨの實父をお尋ね下さる候處幸ひ尋ね當り約十年の行衛不明の親子相判り千萬添けなく有難く御禮申上ます先は不取敢御禮申上候

四倉藪市場は依然高値續く

四倉藪市場 去る一日の取引は白藪 九百九十七貫、最高六十二圓十錢、最低四十圓、馴五十四圓四十錢であつたが昨日は千五百貫、最高六十二圓三十錢、最低四十八圓、馴五十五圓十錢と更に高値を呼び此處數日が出廻りの最盛期であらうと見られて居る

八日會松茸狩

平町田町青年團の八日會にては松茸狩に行く

酌婦を誘拐し來り

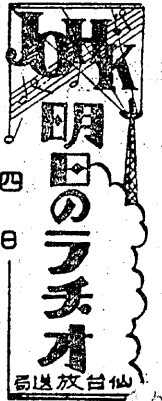
平町に潜伏中捕る

平町五丁目齊藤惣三郎(三)は昨夜七時頃田村郡三春町大町料理店梶原清造方で同家抱婦佐藤ソノイ(三)を巧みに誘拐し前借二百圓をふみ倒させ逃走三春町より貸切自動車にて平町に向ひ同夜十一時頃市内某所に潜伏中を平署員に檢舉され目下取調中

秋期の

大掃除

平署管内の秋期衛生掃除は伏中を平署員に檢舉され目下取調中



明日の部

今晩は北西の風 晴れたり曇つたり 明日は北西の風 曇る

今晚の部

後六、〇〇(子供の時間) マンドリンとギター ウィンダリヤクワルテット 後八、〇〇 謠曲「橋辨慶」 觀世左近外 後八、四〇 三曲「御代の

明日の部

前九、一〇 料理獻立「里芋のソース煮」宇多繁野 前一〇、三〇 趣味講座「書畫骨董を通して見たる達磨」(一)舟越靈戒 後〇、〇五 俳諧「江差追分外」安宅千代外 後二、〇〇 家庭大學講座「明治の文學」三早大教授 本間久雄 後二、二五 運動競技「六

津田校長

高等官待遇に 平第二小學校長津田達造氏は去る一日附を以て高等官八等待遇に優遇せられたが石城郡には同氏の外に内郷第三小學校長仲村辰四郎氏も同様昇進した

泥醉漢の失敗

自轉車から轉倒して 難癖をつけ投付らる 石城郡好間村字小館居住雜貨商小村清作(三)は昨夜九時頃平町に買物の歸途泥酔して居た爲め久保町地内で自轉車より轉倒通り合した職人風の男に喰つて掛つたので同所遠藤某方戸袋に投付られ物音に驚いた家人に救はれた

平裁判たより

△平町字大工町居住高比良勝彌(三)は陸軍補充兵なるが簡閱點呼の召集令状を受け取らずに參會せず陸軍召集規則違反として科料十圓 △石城郡小名濱町字船引場四十三番地自動車運轉手續

世も秋ぢや

冬服の着替と詠歎 今月から冬服への着替... 一時に黒くなつた 今まで白服の中に冬シャツをきてゐたお巡りさんも今日から分厚な黒服に帽子のおほひを取つて福々さう「どうぢや、ちと品もあがつたかな」とかたをそびやかし、赤筋のけん章をちらちらとぞく「ちと官録がつかましましたネ」と鼻先を横になであげると「うん、官録とはななか／＼うまいな」とチヨビヒゲへヒョイと手をやる「だが、もう世も秋ぢや」「うん秋か、秋か」と歩き出してる——くさり

津田校長

高等官待遇に 平第二小學校長津田達造氏は去る一日附を以て高等官八等待遇に優遇せられたが石城郡には同氏の外に内郷第三小學校長仲村辰四郎氏も同様昇進した

泥醉漢の失敗

自轉車から轉倒して 難癖をつけ投付らる 石城郡好間村字小館居住雜貨商小村清作(三)は昨夜九時頃平町に買物の歸途泥酔して居た爲め久保町地内で自轉車より轉倒通り合した職人風の男に喰つて掛つたので同所遠藤某方戸袋に投付られ物音に驚いた家人に救はれた

平裁判たより

△平町字大工町居住高比良勝彌(三)は陸軍補充兵なるが簡閱點呼の召集令状を受け取らずに參會せず陸軍召集規則違反として科料十圓 △石城郡小名濱町字船引場四十三番地自動車運轉手續

世も秋ぢや

冬服の着替と詠歎 今月から冬服への着替... 一時に黒くなつた 今まで白服の中に冬シャツをきてゐたお巡りさんも今日から分厚な黒服に帽子のおほひを取つて福々さう「どうぢや、ちと品もあがつたかな」とかたをそびやかし、赤筋のけん章をちらちらとぞく「ちと官録がつかましましたネ」と鼻先を横になであげると「うん、官録とはななか／＼うまいな」とチヨビヒゲへヒョイと手をやる「だが、もう世も秋ぢや」「うん秋か、秋か」と歩き出してる——くさり

明日の部

前九、一〇 料理獻立「里芋のソース煮」宇多繁野 前一〇、三〇 趣味講座「書畫骨董を通して見たる達磨」(一)舟越靈戒 後〇、〇五 俳諧「江差追分外」安宅千代外 後二、〇〇 家庭大學講座「明治の文學」三早大教授 本間久雄 後二、二五 運動競技「六

今晚の部

後六、〇〇(子供の時間) マンドリンとギター ウィンダリヤクワルテット 後八、〇〇 謠曲「橋辨慶」 觀世左近外 後八、四〇 三曲「御代の

明日の部

今晩は北西の風 晴れたり曇つたり 明日は北西の風 曇る

明日の部

大學野球リーグ戦試合狀況「豫備日」 後六、〇〇 子供の時間 獨唱 本多信子 伴奏 ダン道子 後七、三〇 趣味講演「大東京の今昔」文學博士笹川臨風 後八、〇〇 ラヂオ風景 押田信恭作「大東京ラヂオ風景」小堀誠外 後九、三一(滿洲より)

慕末齋

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤藤紫雲畫

第一百六十五席

女流劍客里見靜枝

贈り物の雪踏

秋山要介は千葉周作先生より贈られた菓子折を杉山五郎兵衛に見せてこの内に何があるかと問ふた

五「かすてらでございますか、それとも蒸菓子でございますか」

要「イヤそんな物ではあるまじう」

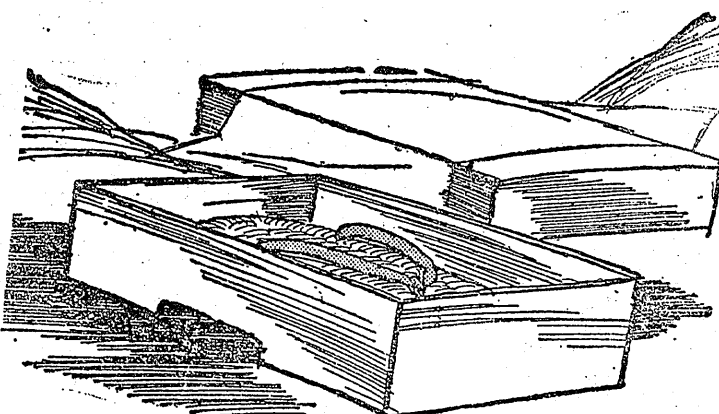
五「それではなんでございませう」

要「食物では無いな、俺の考へにては此内にある物は土に縁のあるものであらう中をよく見ろ」

五郎兵衛はこれを開いて菓子折の中に土に縁のある物を入れて来るわけは無い先生は何を云つてゐるかとお引を解き蓋を拂つて見るとくすべの緒の結つた雪踏がある、五郎兵衛はそれを取上げて

「能く出来て居ますなどう見ても雪踏でございます」

手にならぬ、それでこの雪踏を懐中にして悠々と立去つた、其大度量に感服したよ、それより俺は熊ヶ谷に引返し岸丈右衛門を伴れて上州又は下總に参り彼の邊を暴れ廻つて江戸に戻つたが今度ばかりいよいよいさ病に冒されて半身の自由を欲ししも千葉氏を打据えたその酬いか、然ういふ事情ゆゑ今日見舞の口取代りに持参したこの雪踏



五「これは怪しからん、どういふわけで千葉先生がこのやうな物を持つておいで

据えた、これは千葉氏を怒らして北辰一刀流の奥儀を見度い爲、然るに千葉氏は更に怒らず江戸の道場に参つた節に試合をいたす、諸侯に指南をいたす身が道路に於て立合ふことはならぬと然ういふ意志にて俺の相

れる其許とてこの要介とは魂が迷ふ、心を盡したこの贈り物、これは門人共に示し短慮を戒める教訓の資料といつたのでござらう」

と申したが秋山も平凡の人物ではない、是から香を改めて又も盃を挙げたが夕頃此處を辭して千葉先生は静枝を伴れて道場に至り、そこで静枝の父里見主計の門弟山路金作の下へ使を遣はし呼寄せ、主計を暗殺致した長谷部の居所が判りしゆゑ早速その地に参り復讐いたせといふ事を申聞かせ翌日静枝と山路金作を伴れて武州熊ヶ谷の旅宿小松屋に参りました、これは馴染の事ですから主人も特別に扱ひます、一夜泊つた翌日寄居の俠客虎五郎の許に居る櫻井五助を招き久々にての面會いたした

ツブシ・金銀
高價買入
廉價 町寧 迅速 修繕
星野時計店
平三丁目駅前通り

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌
自由に讀める
川崎巡回文庫
電六三〇番
(申込次第規則書進呈)

耳鼻咽喉科専門
大和田醫院
平町南町
電一七〇

馬
毛糸
本年度新色全部揃いました
御値段は昨年と同じで差上
ます
一オンス 十五錢
〔見本帳進呈〕
ミモトヤ糸店

漆器は**共**が専門
品質の正確と!!!
値段の破格と!!!
在庫品の豊富と!!!
懸命の奉仕は!!!
弊店のモットー!!!
各産産漆器専門卸小賣
丸共共榮漆器店
平町三丁目北裏(元郵便局裏通り)
記念表彰品。恩賜賞品。御注文應調製
進物贈答品。賞品景品類。御注文應調製
店員募集 (十三才ヨリ二十二才マデ)

専門
産婦人科
花柳病科
◎入院應需
井坂醫院
平町田町 電話五五九番